

所属	言語文化研究科 日本語・日本語教育専攻	修了年度	2024 年度
氏名	長坂 裕子	指導教員 (主査)	金庭 久美子

論文題目	<b>漢語サ変動詞の自動詞・他動詞使用に関する考察 —「充実する」に着目した調査から見てくるもの—</b>
------	---

## 本文概要

### 1 研究背景

日本語学習者の作文の添削をしていると、漢語サ変動詞の「する」「させる」の使い方に違和感があり、その指導の難しさを感じるが多かった。また、日本語母語話者が書いた文章においてもその選択が筆者の内省と異なり、人によって違いがあることを感じてきた。その原因は何なのか、探ってみたいという問題意識が本研究の始まりである。

庵他 (2001) は、漢語サ変動詞の自動詞用法と他動詞用法の対応について、「お湯が沸騰した。」「彼はインスタントラーメンを食べるためにお湯を沸騰させた。」のような例は自動詞用法が「する」で他動詞用法が「させる」になる場合だと説明している。しかし、庵・宮部 (2013) の調査結果を見ると、辞書で自動詞とされているものでも「させる」を使うか「する」を使うかは、日本人母語話者の中でもゆれがあることがわかる。

今回の調査にあたっては、庵・宮部 (2013) が調査した「させる」の使用が多い上位 10 個の漢語の中で、複数の辞書で自動詞・他動詞 (以下、「自他」) の判断が異なり、また、岩波国語辞典においては最近自他の判断が変わり、現在最もゆれている状況にあると考えられる「充実」に着目した。

### 2 主な先行研究及び研究課題

森 (2014) は、漢語サ変動詞について、現代日本語書き言葉均衡コーパス (以下、「BCCWJ」) を用いた考察を行っている。その中で「発生する」に注目し、他動詞用法は「～を発生させる」とはならず、実際には「～を発生する」が多く存在すると述べ、「白書」や「書籍」のような校正された文書にこのような例が多いことを指摘している。

永澤 (2007) は、近代漢語動詞の自他の体系が現代までどう変化したかを、近代と現代の二つの時点の用例を比較することによって分析している。近代で自他両用動詞だった語が、現代では自動詞専用、自他両用、他動詞専用の三つに分かれ、その中でも特に自動詞専用に多く分化したという。

野村 (1999) は、漢語の構造を考える場合には、現代日本語における限定的な用法なのかどうか、またそれが日本語として造語されたものなのかどうかということが重要になると述べ、語の使用法や語史を考える必要があることも示唆している。

先行研究では一つの語の使用を通時的に追った研究は管見の限り見当たらない。言葉の使用のゆれを研究していくため、「充実」の自他の使用の変遷と語の特徴を知るために、以下の研究課題を設定した。

【研究課題 1】「充実する」の自他の使用が、戦後の 1950 年代から現在まで、数の上でどのように変化してきたか。

【研究課題 2】「充実する」の自他の使用において、使用場面に違いがあるか。

### 3 【研究課題 1】現代における「充実する」の自他に関する調査と結果

ある語の使用の変遷を見ていくためには、出現頻度が高い分野を選んでその語を分析していくことが有効であると考え。そこで、BCCWJ で出現頻度が最も高かった「白書」のレジスターに着目して語

の使用の変遷を調べることにした。なお、本調査では「白書」に『地方財政白書』を使用した。総務省が地方財政の状況をまとめた『地方財政白書』は、「生活・福祉の充実」「教育と文化」「土木建設」等、さまざまな分野にわたっているのが特徴である。この『地方財政白書』は「白書」の中でも歴史が古く、総務省のホームページで1953年（昭和28年）から現在まで長期にわたり資料の閲覧が可能である。

まず、語の使用の前提として、「充実」が『地方財政白書』の中で、こういった形で使用されているのか、品詞別使用数を調査した結果は、表1のとおりである。

表1 「充実」の使われ方—『地方財政白書(1953～2023年)』における品詞別使用数

品詞	出現数	パターン	内訳数
名詞	2,236	一般的な使用	1,313
		名詞用法	923
		(内訳)	
		を図る／はかる、が図られる	589
		により／よって／よる	58
		を推進する／進める／すすめる	47
		に配慮する／配意する	46
		に努める	45
		その他	138
動詞	241	他動詞用法	214
		自動詞用法	27
その他	36	連体修飾表現、体言止め等	36
総数	2,513		

このことから、『地方財政白書』では名詞の使用が多く、また、名詞用法の中でも特に「図る」の使用が数的に多いことが確認できた。

次に、品詞別の調査を踏まえ、名詞用法の「図る」も含めて使用頻度の変化を調査し、まとめたものが表2及びグラフ1である。

表2 『地方財政白書』における「充実」の使用の変化

年代(年)	～を充実する	～を充実させる	～の充実を図る	計
1950年代(1953～1959)	5(41.7%)	0(0.0%)	7(58.3%)	12(100%)
1960年代(1960～1969)	58(62.4%)	0(0.0%)	35(37.6%)	93(100%)
1970年代(1970～1979)	59(34.9%)	0(0.0%)	110(65.1%)	169(100%)
1980年代(1980～1989)	1(2.7%)	0(0.0%)	36(97.3%)	37(100%)
1990年代(1990～1999)	0(0.0%)	1(2.6%)	38(97.4%)	39(100%)
2000年代(2000～2009)	33(28.0%)	8(6.8%)	77(65.2%)	118(100%)
2010年代(2010～2019)	11(16.9%)	5(7.7%)	49(75.4%)	65(100%)
2020年代(2020～2023)	4(18.2%)	0(0.0%)	18(81.8%)	22(100%)

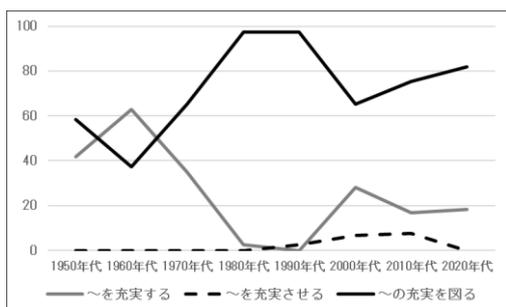


表2では「～を充実させる」と「～を充実する」の比較で見た場合、1990年代にはほぼ「～を充実する」のみが使用されていたことがわかる。また、グラフ1から名詞用法「図る」の使用割合は、「～を充実する」の使用割合の影響を大きく受けるようであることもわかった。

グラフ1 『地方財政白書』における「充実」の使用の割合の変化

#### 4 【研究課題2】「充実する」の自他の使用場面に関する調査と結果

『地方財政白書』から、自動詞の使役形（Aを充実させる）及び他動詞（Bを充実する）に接続する目的語（A及びB）を抽出したところ、Aは(1)、Bは(2)のようになった。AとBで共通するのは4語（下線）のみで、重複する語は非常に少ない。

(1) 自動詞の使役形（Aを充実させる）に接続する目的語A

機能 体制 期間 管理 制度 提供 取組 人材 施設 福祉

(2) 他動詞（Bを充実する）に接続する目的語B

財源 施策 措置 基盤 支援 地方税 経費 需要額 軽減策 資本 奨学金 教育 行政  
事業債 対策 配分 規模 食育 資金 負担金 大綱 施設 体制 提供 セーフティネット  
創業塾 能力 機構 関係費 予備費 地方消費税 取組 内容

#### 5 【研究課題1】【研究課題2】の考察と発展調査—新たな研究課題の設定

研究課題1の結果から、1980年代までは何らかの理由により、「～を充実させる」の使用がなかったことが窺える。また、研究課題2では、目的語となる名詞によって何らかの意図をもって使い分けがされてきたことが予想された。そこでこの事情には歴史的経緯が関係しているのではないかという仮説を立て、以下の研究課題を設定した。

【研究課題3】「充実」という語の使用は、歴史的にどのように変化してきたか。

また、研究課題1の調査結果から、「～を充実させる／する」と「～の充実を図る」の使用は関連が深いと言えそうである。「図る」という語のコロケーションについて、『研究社 日本語コロケーション辞典』（2012）では、「自殺を図る」場合には「自殺を図ったが果たせなかった」と企図の意味で説明している。また村木(1991)は、「はかる」は機能動詞だと述べているが、たとえば「調整をはかった」の場合、調整しようとしたが調整が実現したかどうかはわからないため「はかる」は「～しようとする」と交替する関係だと述べている。しかし、具体的な検証は取り上げられていないため「～を充実する／させる」を中心に、以下の研究課題を設定し、「図る」の機能について考察していきたい。

【研究課題4】「～の充実を図る」と「～を充実する／充実させる」の使用において、使用場面に違いがあるか。

#### 6 【研究課題3】「充実する」の使用の歴史的な変化に関する調査・考察

中国と日本の過去の使用を、台湾中央研究院・歴史語源研究所の漢籍全文資料庫、日本語歴史コーパス等を用いて調査を行ったところ、以下の可能性があることがわかった。

- 1) 中国では、時代を通じて形容詞や状態を表す自動詞として使われている。
- 2) 日本でも、「充実」は元来、状態を表す語として使われていたようである。
- 3) 近代の自動詞の使役形（を充実させる）(A)は再帰的關係で、他動詞（を充実する）(B)の目的語とは用法が違うようである。近代に英華字典等で「充実」がstaff(他動詞)を説明する語として登場した。その影響により、「充実」は従来の状態を表す用法に加え他動詞だということが認識され始め「充実する」を自他両用動詞として使うようになり(B)の使用が出てきたのではないか。
- 4) 他動詞の使用においては、近代(B)と現代(C)で意味の面でつながりがある。
- 5) 自動詞の使役形の使用については、近代(A)と現代(D)でつながりがなく、社会の変化に伴い行政の役割が変わり目的語にも新たな語が登場してきたのではないか。

表3 近代（日本語歴史コーパス）と現代（地方財政白書）の自他の使用の目的語比較

	区分	近代	現代	
			1999年まで	2000年以降
自動詞の使役形 ( )を充実させる	14	力	活力 A	
	15	作用		機能 D
	16	時間		期間
	19	量	各部 不足	
	23	人物		人材
	25	公私	日本	
	30	心	教練	制度
	33	生活		福祉
	35	交わり	団結	
	36	待遇		管理
	51	物質	水	
	53	生物	有機体	
他動詞 ( )を充実する	11	類	源泉 基礎 B	基盤 C
	13	様相		内容
	14	力	国力 資力 富力	能力
	18	形	孔	
	19	量	欠乏 缺乏	規模
	24	成員	兵 ●員	
	27	機関	国庫 機関 衆議院	機構
	30	心	精神	施策 大綱 対策 ●策
	34	行為	権利 義務	
	35	交わり	軍備 兵力	
	36	待遇	自由	行政
	37	経済	実利 供給	財源 経費 配分 資金 資本 ●費 ●額 ●金 ●債 ●税
	38	事業		措置
	52	天地	大洋	

※「区分」は『分類語彙表—増補改訂版』（2004）国立国語研究所による。

7 【研究課題4】「Aを充実させる／する」と「Cの充実を図る」に関する調査・考察

『地方財政白書』における「Aを充実させる／する」と「Cの充実を図る」の対応を調査した結果、Aの多くがCとしても使用され、さらにそれぞれの用法は文脈の理解に齟齬が生じるものではなく、置き換えが可能であることが著者の内省から推察された。また、これら三つ用法は地方自治体が作成する同一の計画書の中でも使われているが、そこでも同様に、三つの用法の意味に大きな違いがないことが示唆された。それは、その作成過程において多くの人の目にさらされながら、文言の修正や統一の指示がなされなかったことから窺える。さらに、企図のニュアンスがより鮮明となるタ形「～の充実を図った」の文を取り上げ、使用場面を調査した。その結果、「特別支援教室を区立小中学校全校に設置し…支援の充実を図ってきた」というように、何かの根拠により、充実の度合いが深まったという意味があることが認められた。これにより「充実」が「調整」や「自殺」とは語の性質が違うのではないかと考えられたため、「充実」のほかに「図る」とともによく使われる語でも比較分析したのが表4である。語が形容詞的（状態）なのか動詞的（行為）なのかによって違いがあることが推察できる結果となった。

表4 「を図る」とよく使われる語の性質

語	『岩波国語辞典』(第8版)における自他	「図った」と交替関係になる表現	行為か状態か	自他、自の場合の使役形 ○：他動詞用法 ×：使役用法
充実	自他	充実した／させた	状態	～を充実させる (○)
調整	他	調整しようとした	行為	—
自殺	自	自殺しようとした	行為	～を自殺させる (×)
向上	自	向上させた	状態	～を向上させる (○)
推進	他	推進しようとした	行為	—

#### 8 まとめと今後の課題

本研究は、漢語サ変動詞「充実する」の使用のゆれを観察することから始まり、そこからさらに発展的な調査を行ったものである。今回、「充実する」一語のみに着目したが、今後は他の語についても調査し、共通性を探ることについて、今後の課題としたい。

#### 9 主な参考文献

- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘 (2001) 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 庵功雄・宮部真由美 (2013) 「二字漢語動名詞の使用実態に関する報告—「中納言」を用いて—」『一橋大学国際教育センター紀要』4, pp. 97-108
- 永澤済 (2007) 「漢語動詞の自他体系の近代から現代への変化」『日本語の研究』第3巻4号, pp. 17-32  
日本語学会
- 野村雅昭 (1999) 「サ変動詞の構造」森田良行教授古稀記念論文集刊行会(編)『日本研究と日本語教育』明治書院
- 村木新次郎 (1991) 『日本語動詞の諸相』ひつじ書房
- 森篤嗣 (2014) 「漢語サ変動詞におけるスルーサセルの置換について」『帝塚山大学現代生活学部紀要』第10号, pp. 139-147 帝塚山大学